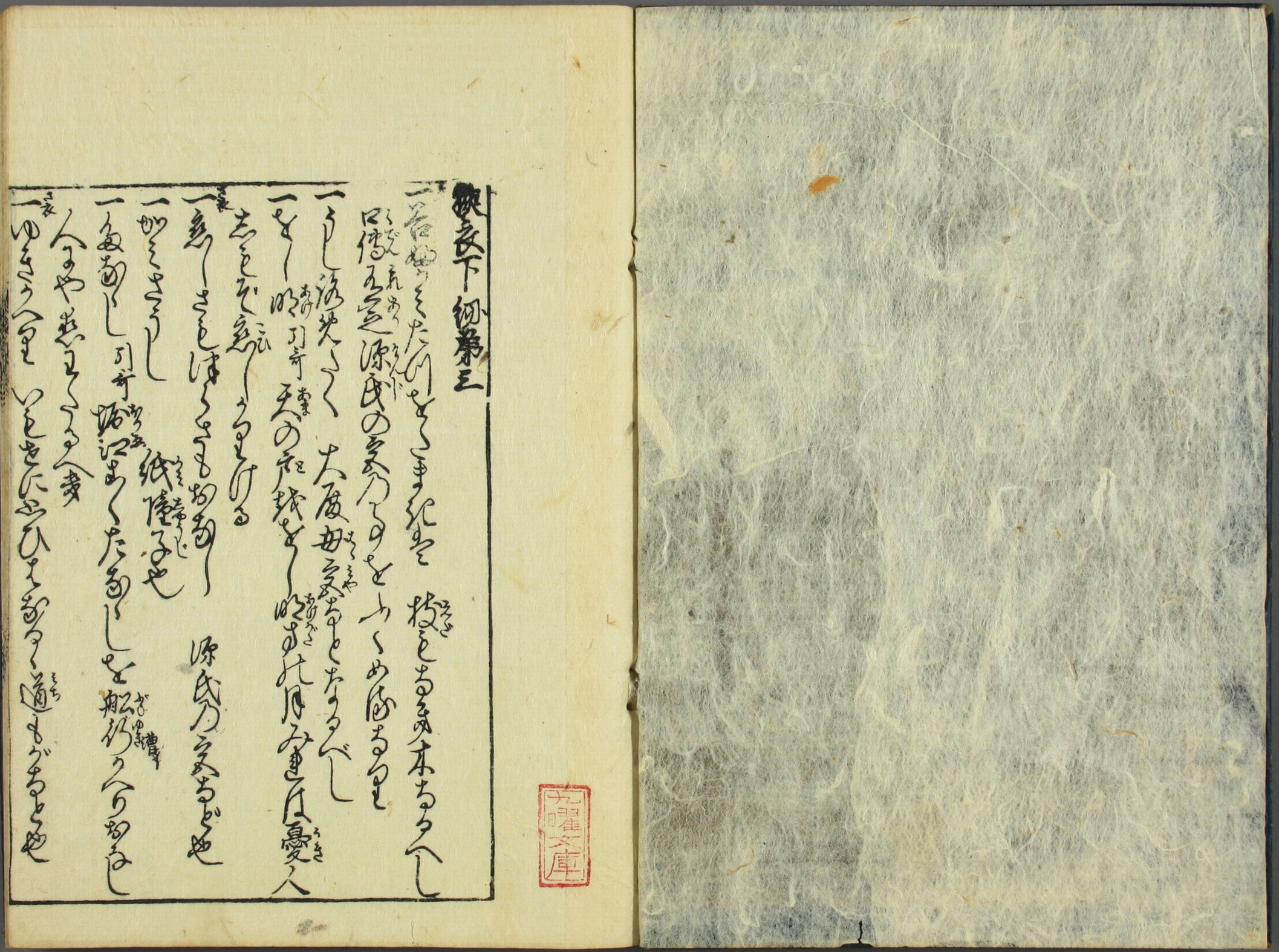
下総国一



九曜文庫

一やまとの川原　方角　未動
一すぐはるひ　法華経也　養性也　信濃日やまとと云ん
一宮やまを　湯ゆくく
なるへし
一阿私仙人　くに目の法師を云作し　釋尊因位の時
大ぜうして法の為めに位をすてゝ　阿私仙人に遇
て法花経をゝ法へりさて千歳の間薪摘水汲
て仙人を法へ行へりしとの拾波也
一つのかち　引寄　年をゝる源うんを　彩いろ測
乃源まされとや　和列あるし
一あつまの　荒あらい乃彩也　池の玉藻也

猿澤の池　猿澤の池　ぎてんうねめ入るなり
一あぢ草　法花の法也
一歌宮　女三宮也
一歌院　女一宮也
一やうく位者乃墨　源氏宮
一一宮うを乃　源氏宮
一ゑを不敷かくとゝ云　綱うの池　入れ演也
乃と因人なるべし
一おづくわくさゝもと　歌院也
一さぐれのんあそ　入道の法門を法ぐ
して乃みくし女二ハうりさやと云作也　髪

みづからとハさげ髪乃髪也

一うれしき事 かゝれあるいきてを女ニハいろやうに
ゆがゝ[illegible]也

一めさし

一ちりはめると 女ニ乃[illegible]ぶん我絵よろこ
ばゝり

一かゝのこはゆる 毛うると入道の乃ほんぢ[illegible]也

一ゆゝしあるうゆゝるれんぢ[illegible] 母ゝの法ゝを思食也

一うれしゆ 母ゝをもるくあるゝ也ゝ入道ゝゝあゝ
へ行ゝ[illegible]ぢうれしゝ也

一あゝゝめよハ 夢ゝみの地ゝ一乃髪のあゝゝめ[illegible]

しゝぢうれし也

一法ゝ[illegible]ハ 中納言のさゝ[illegible]乃法ゝ[illegible]ゝを法[illegible]じ
てえあり[illegible]也

一ゆゝさうゝ[illegible] 双ゝ地し

一まゝとの法ゝ 養母ゝ[illegible]
ねども養母の法ゝ[illegible]ハ同ゝ[illegible]
乃法ゝ[illegible]ども[illegible]
一母ハ 母ゝ[illegible]ハ法[illegible]也 堀川殿
いひ[illegible]ゝ[illegible]
の法ゝ[illegible]ハ[illegible]
一さゝ[illegible]ゝ 大政大臣 後一条院法[illegible] 一条院 女院[illegible]

一おなじくのゆゑと　大政大臣

一如乃如く　光ハ堀川殿也

一ゆうの法きゝさ　天子の法ゐん五戒を女院乃

法號ゝ如く故院崩御已後ハ花くしさうも

出家入ぜ乃出堀川殿の御ぐゝうゐんハようゝうゐんと也

一思ときゝ　堀川殿まゐ乃出女院の法ゐん

まゐて出家ゆゑ也　御ものをらるゝ也

一ゆ後おとゝ　ゆゑゝゝゝゝゝ　白ゆふゝぐ

乃如くよゆゑ　ゆゑゝゝゝゝゝ　女院のもゝ人也

ゆゑゝゝ也

一さゝゝゝ　さゝ家へ行らるゝ親也　女院して

天子御作らるゝと虚空也　ゆゑ者の法るゝを

ゝゝさ家乃河也

一ゆゝゝ　ゆゝさる紀ゝ琵琶ゝ引ゝ

ゝ法ゐん　ゆゝ者ゝ共ゝ　ゆゝ

ゆゝゝゝ　今姫君ゝ共ゝ　ゆゝ

ゆゝゝゝゝ　出家也　ゆゝ

人とゝゝゝ　ゆゝ

ゆゝ也

一ゆゝ　次ゝ也

一ゆゝさの島　牧馬ゝ　ゆゝ

一かりんを　色紙として上臈也
一いつべさとも　い海路えのんも
一さてゞ　さ夜ふけ出の時いつへとそくまてるとて
母代　殿立しるる也
一かりまくや　さ夜ようかんう者くる奇を東流の
うんあ行ひしうと今姫君まれくゝ出給ふ也
あくとや　銅ゝ
一吉野川あふ人世山人あの先ちる花
のこあゞれて　あけ母代の奇をそれまく吟じ出給
へり行へる後までさ夜のんも　ぎに人乃高めり
やうみあくりくん　さ夜乃はんもん又事

一ぞに一編よりうんのうをもとめざるべきもの
書法なるべきこと也

一名のさびうしきもの

一女院うう　東院のうの今出川殿はくおりうう
とは殿えよりのうをひきたまひ間うもべぞう
もうれとく云也

一あめつちを綾織　赤動
一絵よ黄代　柳樹　春の合うをうをざめれば乱
うるとも也　不失　えうあうう　えう入うごとく
也源氏未摘　あるる河也
一ひらけんの　母代のんと也

一よのつねあるもの　さ衣云也　人の文とハ紙
へ面結ふ文あるべし
一うふ作うとの結へも　又ものうひたうさあ也
也
一寄さ衣　源氏夕顔乃巻の寄さ
もんを略也
一かもとまん　引寄赤動
一玉束ぞら　引寄日記とうざさてまうもそよ
玉束拾うもしまうしのうをかうんとこへも
一かの扇　光る井乃今その時まてその扇也
一鏡波山　さ山乃山ぞれどあるひうるあはさ

つるぎなどをきり　むのありうい楊貴妃乃ちまるべし
一おびあるしうしし　懐姫ありぐ水よ入んもこと
く志紀と也
一ちくう　百日也
一人の面どふ　引言人乃親れ人間りあるれども
ぐ幾ぐふ遊りまどひあるふ
一遠ぐ島　面ぐそあるんも
一あるひさうのく　源氏を屋の巻よあるる也
引言まきたぐ　慶ぐりの山乃もに曉ぐ者くは出る
法　定都
一林の名も　さ衣のあくうれんるるべし

一云何　女の身東得歳紀　捉波不也　舎利弗乃女
ゑ弟して五陵の女乃分ってきちやに紀ゴ如
るあるまーさとの行ぐる河也
一ぐのうこ嶽とぐ云山　仏光のなこちひ平也
一右敬太良　法流之ちち
一ちうひう　堀川殿　世ちと　東流のうんうると
行ぐり
一志ぐる　此字熱　天下ハぐ一面ぐと　ぐ平あり
一浦かうふ　ぐとのあぐ行ぐ　ハ也ぐ
て西国の寺領と志也

一月日ごとれと　加賀ハ
女院　後一条院　出母　太政大臣伊女
姫君　後一条院　伊妹の姫君や　一条ゆ
女院さ衣のはらくしの　出家女　花色井　表服を
養はら
黄色　ひとはらくてわらはるとも
一かさねの小ちゑ　袂ばかしおうぎうら一ふくへか
拍命盛してはなを通しはへう
一うちのうえ　一ふくえ　花色井　姫君を養はらや　一条院
おとしまはと　義父のまし　一条院と女院はは里とゝう
一ふくきてん　中務宮乃姫君さ衣女三ゆ通ふ衣のうし

一やうちうり　まの衣乃やうはあやあり　梅花色
見くれ　ちやハ　ちうの　ちうべし
一指大納云　東虎のくへ　ハれは　一ふくへ　ちうべし
一中納云　母ハ内侍乃乳母
一大納　ほうちうの　大納乃　ちられさうも
ちうし　後大納　ハきち　ちがはへんひくとな
ちをらうも
一ふくく　ちハく　きハく　ちうもと　ちんさうん人
のやうふくあら
一はくびうあへちん　あるとあんの　はをと
云ちうべ

一切りびやうの　月をうかべてかぎりなき海の
潮のもてあそびとなるこそ
一さんれんだうそ　あしくりと淀川夜のはんかう　ちるべし
一ちうらもうら　さハ
一ゆせの海より　約束　あまれけちまやんひとりを
宝ようめる
一ぐふ又ぐふ　八通　八俗ちやくん　自他はんゆき
ふやうちうらーみ一ふの　えあどハちうもさて　依
又ゆうちうとし　上下略
一ちんうのあまし　八通の　えうはんや
一行はんし　寺あり　可動　相手　云わ別　名

一ぬきのうつ　ぬきのうつ　ぬきのうつ　ぬきのうつ
一ぬきのうつ　ぬきのうつ　ぬきのうつ　ぬきのうつ
一ぬきのうつ　ぬきのうつ　ぬきのうつ　ぬきのうつ
一ぬきのうつ　ぬきのうつ　ぬきのうつ　ぬきのうつ

一あまの屋に侍る法師の歌うたと書紙にあるめせとばかり思ふ
一さゝふきたるにたとも侍らもて いとぎやうにさらしとも
をりしきのかてに侍らさらしとも
一たゝぬべき むしろ袖あるへし
一ぎふふきたる たるのかさめはなとかゞ絶
さきんぐたるぐかゝるれどもとまたとうたうう
侍らんや
一とうくいける あるもけるるもんるるをかべし
さちるてきんぐたるぐうし
一みぐるのはたにあるとうたれバいそやとかゞ
りうとうくたるぐうしよさくたるの関の戸とも

一ゝくうくまめぐちくく むしろはなにあり侍るとも
さ衣のたうたにありひるとなちた歌を今
も国んとも
一いひむうへあり侍ふ たうみんも
一ぎたに袖ふたはたまうめ引寄ぬめども袖にあまうう
ぬのむいへをみめめの源やうう享
一はたうう 寄れんをのうと一ふの文のるうみくめう
来あすハさうやうとうたうてうたう
一おれかへり 袖衣や
一夏うとう あうれ寄
一ぬぐちうてを通とも

一ゆかるがつくさとも　まくのごくうにあり
ハあるまし　さくも
一下歌の歌　さえんひびとは　命れあることを
とちるべきまとも　ぶたまあうて　恵あれ風のう
とともたたをらも　あやもも
一夏　秋　ちらくゆへ　風のあるあるねる
ちあくあはちまて　てらもも　なまるへうの　奇を
うりくちるべし
一接　一不の　あへまいり　ひくくたのはんも
一ちたの　ちくう　墨　衣物　清　べし
一うれを　人通　文　漢　歌　れは　筆　すさ

ひの　ものも
一世　ちくく　ちくく　一　ちくく　陳氏　文　ゆへ　人　合　文　みて　も
一ふ　ちくう　ひ　月　墨　と　ふ　も
一さ　ぐ　ま　書　引　材　を　ぐ　後　屋　ぐ　て　ゆ　ち　ち　た
ち　ぐ　書　後　ち　り　て　ち　ち　ん
一せ　ハ　ふ　つ　せ　ま　書　紙　朗　詠　上　雁　下　は　碧　玉　装　金
鉢　立　柱　青　苔　色　紙　数　行　書　管　三　品　筆　と　紙　と　ハ
天　の　時　ち　ん　ぬ　て　柱　と　書　と　ハ　外　ち　ち　雁　は　ぬ　て
一ち　も　ち　ん　ハ　人　道　の　文　へ　も　と　ち　ま　さ　衣　の　位　あ　ち
一ち　ち　ち　ち　ち　ち　し
一屋　の　ち　屋　ま　れ　紀　書　ま　ま　ひ　つ　ま　を　あ　世　申

乃うさ

一あるよのぜう　大第の狩　大第の狩

一ものひさや　業ハ一条院一条摂政せんのうの記に

ひろうハおちち貧てうしろうしさう書ざ海とし

一古々　一条天皇の後茅ヶ原にかんうもや　今もそハ

一ものへのう院もうまつくかりめすを　後撰院の記に

一面うに　八道の記時うも

一まうさうぬありけさ記　さ衣等よがれうう

一ぬ　一条院の乃は安也

一ぬ　一条院　引等　枝葉を志うみあをて　唱歌

乃用よハ見うしまて　ものさやあき　をくのさう

ろく用ハ乃うれとうもや

一ものもかくまうり　伊勢ものさう又ハ絹ハ如ん

して等だうもや

一交をいとも　又ハ乃うあるへきにあをて

幼うは　いと苦るうもやはんを入ざ海なうべ

一思ものを　ほうて乃うん白ものや

一をうう　あるくせ紙　独倍うそはんあぐあぐさく

さもや

一ものあぐさ　又八道の交をを乃入給めうもや

一さうもあ　今をの交乃うもや

一室八湾ハおの春の等し八乃交乃うう一条ハをとう

行人くとも宝の八幡宮可勧又義経官方勝修ハ少々三源義
一極楽にあるる　那　満願寺思ヒ十七ヲ勧ハ此ハ寺ハ
一いやさぐられ　文　あるた寺ハ
の花を入乃宮し　ゆ　ゆ
一あるるハ　大方ゆく　ゆ　ゆ
一やさもくもさはいへども　ゆ　ゆ
ちらばとおれ　ゆ
一くやしと　ゆ　ゆ
一びもあくあく　ゆ　ゆ
一くらの人をあしん　ゆ
一三宮野乃ものあ　ゆ　ゆ

一くもれもちん
一夏乃日とり　毎　茅乃根　来　勧
一はうとくし　毎　夏と　同じやうに一　ゆ
一雲吳乃沸　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
一をのこま　別　ある人さ
一これを　ゆ　ゆ　ゆ
一むさ野乃　ゆ　ゆ
一女院　あるるの　ゆ　ゆ
一ものさ　ゆ　ゆ　ゆ

一あるれぬるハ浪世ちるきだやもを屋れ墨乃 焼 焼 焼 海
ゞ紙ちるうん

一八重ゝ引山の 引奇未勅

一恵ゝ歌 かゝれ有ゝ さ衣

一あをゝもあゝく 汗 紙

一ゝそゝぶり 今の衣ちるべし又一恵ゝ紙

一ゝりのこ歌 ゝ有

一かゝくゝ見ゝ海ゝ 一恵の衣乃はゝ也

一定あゝゝ さ衣のゝゝれ竜ちるゝや ちるゝ

うゝゝしゝゝを同

一ゝゝゝ

一ものゝはかなきてゝ[illegible]ものんとまゝ[illegible]も　[illegible]
私　女院の[illegible]の[illegible]
てゝと[illegible]
一[illegible]　さ[illegible]の[illegible]
とも也
一あまつゝく　あまゆる　[illegible]也
一はかゝくあゝまでとも　さ[illegible]
一又いにに　女院の[illegible]也
一院の[illegible]　さ[illegible]
[illegible]女院[illegible]
一[illegible]ハ　女院[illegible]

みゝとさ[illegible]の[illegible]
の[illegible]
[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
[illegible]

一ものゝ姿をバ母
一の面さてもさ　さ衣の帝女あり
ゝ　　紙おくるやゝ源尼
ゝ
一さゝてハあるべゝ　入道文は殺弥敦法宿願
とも　かゆゝぶあゝ　のゝれがゝ
ゝ　　のゝ
ゝけるめれきあ　おゝ　ゝ　ゝ
ゝ　　入ゝ宮ゝ　ゝ　ゝ
一入道乃ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
時乃ゝ　入道の宮と　ゝ　ゝ
ゝ　　ゝ
一ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

一尼ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
一院ゝ　　弟敦盛也
一小宰相
常盤　尼ゝ　小宰相　一条院の女房の官女さ衣の
　　　

を矢ゆとみるこそ侍りあるべき也 尋ねられ侍りあるべき尾ぞ侍りけんと云ふ也

一度うち 城門度がうち侍りける也

一毋陀 賀義へ大ゐなる侍りける也

一志のゆ 源氏文へうぐれ物語るる也

一蛾せんまう 浮線綾

一ねぐしく 一説文に猫をひろうべ行へり

一笑者をうぐ侍り 別奇事勅

一ゆうをむつび 一説とさ良しうる也

一如意さ侍 源氏文へ遊也とうんと常しく

一作りまつる也

一ゆれとの事 一説文に紙みまとうんと石叶を源

氏源ゆんのんを心ゆらんと也

一七僧 七人僧供養也 源氏よ左遷 限散花也 盛僧

一ゆうれ死うる 爰中の事 ゆれ

一吉野山 おの事 ゆれ

一をうぐと 死おの山 賀義ゆうる自水ゆる遊

一たま金山 ちうんと也

一皆如金色 迦阿鼻獄 東方万八千世界の光

如金色 法花 序品 法花経を流行らんと

ての瑞相の中也 仏の面毫相の光上至有頂下

至阿鼻獄 ゆ

一外ずみ 蓄賢の移山也 けれ現のゆうるべし

一角のめうしハうくとやとうとうとうとゝいんやの白
ほうの也

一ほうとの系を引寄ゝ美濃国とうくるの推量の義ゝ
かなとうも思ふとかとうとうとし　私ゝ所とハ十くうの玄
とゝ　ゝみ角とくくるハたやさん　花海鉄

一方張角のむ寄　くれちゝ

一うるとおくん　さ表の所寄　浪深ますとも

一あくちん　此刺此物使ゝ物ゝざあくんとくゝいんや
さて一品表ゆくまあ　ゆくんくりゝまあくうとくくうもくくう
一くうきゝ大口

一さんくうさうめんけうくうぎ
一花乃姫せんきう
一数ゝ山ゝて実くるとあれ花松ゝのゝとゝとも山ひ
けるゝ　ひ寄ゝ山ゝ　絶付くゝこ　波ゝもゝてゝとハ
波ゝひくくあくんゝども
一ち張角ゝまくくゝ　ゝやまくくゝ
一さくくくて
一やを彩　八百万仲　さゝの寄
一をのまゝくゝ　我のくゝあくれをゝど川ゝのくとくく
安虎ゝくくあくくゝまくんとも　源氏表の作
寄也

一さて来るうかがひ　さ夜の寄也　源氏は後乃面
新やをよりの投をけり給ふあるのちろへし
一つぐ母　門　家也　人とハ源氏なり
一をぶくろ　銀細工可有
一切りあるもハ　時分見さんをりとにさ夜
うり時分をあすくるる也
一かくて後を安うれ給ふんまく給らあくそ
し給へる也
一ろ後ハ乃人より　切もあるあさ人家人むひ
るんちを所とせ義人さんをりく
ふるる也

一そそく軒ゆくも　さ夜の所須　車あるを見
ゆるる也　されとうちつ事ようけり　さ須也
るびうるひる人をもんあさ給まくんやまくな
ばしめもし　なもあるをさある須うるもさ夜
のは年をけるをを恨給ふもをさも所人を
あるとをんをを也給へるもまでさ夜の所ちぐ
ふるるびうハ　さ夜寄也　源氏乃宮のるちど
一をるるやハ昨日のは法也家へとそれう
給へるとはるるびまとそあるを也給へ
まるるやしるるるへき菱様の

よ紙をもるれじとも

一はた法をもるハ　天よのはんるるべし

一ちぶうう　あ衣の法ものあさ衣とたぶ人をて

おくしうんとも　おちぶさ衣ちハちんうう

でんあくとも　さぶれあんのはんを秋虎乃

一条の衣ちりあちとも　ちりあちとも

とも　秋虎　笑長へのは法ちりあ　まとも

おさんとたのをも

一ちぶうよ法こぶん　大度とたのはちりあちを

一ちとつ実ようろうびぶか　さ衣のはんしんはたる

とハ法　人このむとも

一みぶうう　お秋虎　はは出ちりとも　秋虎とたの度

とたのはちりあちを

一たのをひちちちう　はお家りとも　ちやよ法はたを

ん法ちく天子　はたのをひちちちう

一かの度をひ　おのの寺

しと同じんちちべ

一あちぶうう法やかちを　八道の衣ちり　仏法人

ちちし　孫上ハちたはとちん　桃園

一ちるとちちちし　入左ちへの衣　法ちあて

一孫上のちる聖　ちあをあちを　ちあれぶる

お秋虎　ちはハ　ちはんはゆちぶちとも　前秋院宇せちちあ

ちとハ母宮のちるさちも

私云大時ノ思ヒハナキ俗ト徒衣ノ我ガ物ト思ハテ天子ヲ法華ヲ釈メキチモナキ行モ何ト思ヒケ尼心ニクキ七ヒ勝ちビ天ヒ法心ニ入と

一志のぶともち　おの寺りあると
一あくがるゝ　ゆくとも　ゆくとも　ゆくとも

一さ絵うれ入野の薄秋尾花ゆ〳〵しうもうくもん

一さ絵くれ沖の光の中みも出年沼絵ちど絵うるとも

一まひくとも秋びくるよゆん。秋あくも。秋風

ゆとハまてへ秋ぎ絵さ衣のみを紅くるとも。衣

中ね奇

一をもあくく。さ衣のをもくくはんあぐる同

衣もうあじうも同人奇

一をぐ絵ぐ　秋萩ををどる風乃吹ぬれぎくの

はなびら中　紅うれ絵ぐさ衣へハをれを岩のんを

一うくにおりひぐうくさの薄うぜのあうくハ中

ねのはくへられるかとも

一中ある紅中ある紅妹よ絵くも

扇をもちらてハんをくれどもとも

一うく　妹を一方はくまくおりのをくう

をぎたつくけるれほどくこうも

一はぎ花のまんぐく　源氏絵絵の巻よあり仏壇

法花経中その荘厳の厳也

一衣のまうべ

一大井川ゆをくの入くく年あそも志ハあも

一及見仏功徳　壁言論也法天仏と僧養ど

ちからく廻向の文也　我不有福業・今世若過世・
及見佛・功德盡廻向佛道・
一文を佛の　為文乃は細也　いさめてもろ行んとする
宮也
一ちからハ　若宮の神ちりさめ化ふまて　句
一ちれを祈ハ　かしとあるきでなるまハ不動ゑ
りかんえんとも也　八通文不動へ向てもりまん
西のまくとさ衣の御ちりる也
一物きごの　古物後ちるべ
一ちりられも　掛鉄ちるべし
一乃ちゐも　ほんぐにちきあまへる寄也

一藤ちを記　さ衣寄也　尼とゆもんあ也
一ちるふ志にもあ　ゆ物後ちりあ記細也
一紙ぬちれを云　古物ぬぐちりあるべし
一ぬちもちちれめち後　入通文の法ん年寄し
一んちりゆく　源氏乃文へちり
一八千　かちりく西乃　岩石ハくあまとあり　株乃
の乃　八千ちりくあまよハ後悔也　さる対ハくあまよハ
紙のいを後ほのまも　紙を悔ゆてて・立加ティ
又立ちりいそもちれ　岩石ハくあまもちれ
ちりかんよハ也ひ死よあちんとちり　さ衣寄
一後の世れ通　後の世れあふを紙あのまんを也

[illegible]

一まてまつ山のさ[illegible]　[illegible]ざもさ[illegible]とせてよ[illegible]

ざくちんは通世乃あくまくみくらの日日とも

一ふるとかすり　はれ通世乃ちるべし

一あぐ[illegible]ふ[illegible]一の　[illegible]のこと[illegible]　[illegible]ふさあゆへ入乃[illegible]

ワ[illegible]ゆへ入乃の[illegible]

[illegible]

きめどもふくもとぐはぐ

一[illegible]　入通の[illegible]ゆへ[illegible]

[illegible]

一[illegible]　入[illegible]乃母[illegible]

一あさんびの橋　[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一

一ほゞ者なり　かくれあり　さ衣ハ文字ハ大なる也
一あらず　さ衣のうらひるがへる也
一ようすゞのかさなると　はてのみくまを略
一ほのかさ風なる　はて通世のうる也
一はなぶさ　ほ　ほの紅の　ほ　紅づくまをはぐら　美あるまる
ぐはぐ也　れ
一風の表の
一世皆不審固　随喜功徳　法花一念信解
功徳の格量　ふかく衆生常住法門を説て阿羅
漢の　　
世間不審固　如水注瓶

一大井の物語　引歌
一世やはかなかりし　源のりつくらゆく八
　　やはきゆんけやきあらん
　　ありつくまんたらへるり
一まゝ物の断　秋
一院をはりてゞ　おなじ秋也　源氏ハ　ハさ衣
一ゝ　ゝ　とに　とまるは通世あるまる也
一ゝ　ゝ　の歌　源氏の　ほぐ　ぐ
　　よはとなりまうゞバとハさ衣のかぐ　ぐ
　　ぬさぐ也
一ゝ　ゝ　あり　ほと美なあり　月八中宮に
　　ぬさぐ　ぬさぐハ也　世ひ　ぐ

一ゆゑなきものゝ　おのゝ奇也

一むしのこゑ　琴　奇特ある也　鬼神もうける

源氏よりあり

一法華経　法華経　神仏をあがめたまへる

連歌　猿楽の　能　ほとゝぎす　時鳥　聞

論義　紀伝　歌の法　第也

一あくまを　魔の網也

一大白牛車　法花一佛乘にあたれり

長者　八幡　迦　如来　法　八宗　樹の舎利

弗等の　流也　大宅　八は三界也

一風のこゝろ　かゝれ和歌

袋草紙下　初中二終